

総務産業委員会報告書

令和4年6月23日

備前市議会議長 守井秀龍 殿

委員長 山本 成

令和4年6月23日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第48号 令和4年度備前市土地取得事業特別会計補正予算（第1号）	修正可決	なし
議案第49号 令和4年度備前市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）	否決	なし

○閉会中の継続調査事件について

<所管事務調査>

- 坂根浄水場及び三石第一加圧ポンプ場の工事の進捗状況について
- 水道管路更新について
- 赤穂線におけるJR西日本との協議状況について
- 移住・定住政策について
- JR寒河駅前の駐車場の整備について
- 河川のしゅんせつ及び管理について
- 各種経済団体等への補助の在り方について

<報告事項>

- 岡山備前SEA TO SUMMITについて（文化観光課）
- オリックス・バファローズ観戦応援ツアーについて（文化観光課）
- 備前花火大会の開催について（文化観光課）
- 日生・小豆島大部フェリー航路継続に関する要望書について（文化観光課）
- 備前焼フェアについて（備前焼振興課）
- 市営久々井団地の土地売買について（産業振興課）
- 日生移住体験住宅の用途廃止及び所管替えについて（都市計画課）
- 牛中簡易給水施設での水質異常の発生について（吉永総合支所）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第49号の審査	2
報告事項	8
所管事務調査	15
議案第48号の審査	20
閉会中の継続調査事件について	22
閉会	22

総務産業委員会記録

招集日時	令和4年6月23日（木）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会　～	午前11時50分	閉会
場所・形態	委員会室	会期中(第2回定例会)の開催		
出席委員	委員長	山本　成	副委員長	内田敏憲
	委員	尾川直行		石原和人
		森本洋子		藪内　靖
		松本　仁		
欠席委員	なし			
遅参委員	なし			
早退委員	なし			
列席者等	議長	守井秀龍		
傍聴者	議員	青山孝樹		奥道光人
		丸山昭則		草加忠弘
報道	あり			
一般	あり			
説明員	文化観光部長	大岩伸喜	文化観光課長	片岡英史
	備前焼振興課長	高坂　泰		
	産業部長	河井健治	農政水産課長	岡村　巧
	産業振興課長	坂本　寛	上下水道課長	池本吉弘
	都市整備部長	大森賢二	都市計画課長	小川勝巳
	市街地活性化政策課長	瀬口俊明	建設課長	大森康晴
	総合支所部長 兼三石総合支所長 兼日生総合支所長	杉田和也	吉永総合支所長 兼管理課長	江見清人
	三石総合支所管理課長	瀬尾茂樹	日生総合支所管理課長	横谷美加
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○山本委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開会いたします。

本日の委員会は、文化観光部、産業部、都市整備部ほか、関係の議案の審査と所管事務調査並びに議案第48号の採決を行います。まず、議案第49号の審査を行った後、説明員を入れ替えて報告事項、所管事務調査を行います。その後、委員のみで議案第48号の採決を行います。最後に、当委員会の閉会中の継続調査事件について御協議いただきますので、よろしく願いいたします。

なお、本日の委員会は、新型コロナウイルス感染症対策のため、議事に関する説明員の方のみに出席をお願いしております。必要に応じて、説明員を入れ替えて行いますので、御承知おき願います。つきましては、円滑なる議事の進行に格別の御協力をお願いします。

また、本日の委員会は、新しく議会が構成されて、文化観光部、産業部、都市整備部のほか、関係の説明員の方が全員出席される委員会となりますので、委員の自己紹介並びに説明員の紹介を、議案第49号の審査の後、報告事項、所管事務調査に先立ち、行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、直ちに本委員会に付託された議案の審査を行います。

***** 議案第49号の審査 *****

議案第49号令和4年度備前市駐車場事業特別会計補正予算（第1号）についての審査を行います。

質疑を希望する方の発言を求めます。

○石原委員 この議案については、前回2月定例会に続いて2度目の御提案ということでの審査です。当然この取得する目的とすれば、香登駅前に駐車場をさらに広げてということでしょうが、前回の委員会での御答弁で、取得することの意義、目的については、JRを利用される方がさらに安心をして止めていただけるための駐車場確保という御答弁もあったわけです。現状は、今既存の北と南に2か所ありますが、駐車場利用の現状についてはどのような捉えでいるのでしょうか。

○大森建設課長 それでは、駐車場の利用状況について説明いたします。

令和3年度末、年間の利用状況ですが、香登駅南45.9%、香登駅前47.7%となっております。

令和4年度の4月、5月の利用率を申し上げます。香登駅南40.8%、香登駅前70%となっております。

○石原委員 利用は、南がちょっと少なく、確かに駅前北側のほうは幾らか止まっているのをお見かけしますが、2月の段階で四十数%の段階で、さらに駐車場をとということで御提案がそもそもあったわけです。市がこういう形で駐車場用地を取得して整備して、たしか五、六台分、今

回の土地購入でさらに止められる台数が増えるというお答えだったと思います。市が駅前の用地を取得して駐車場を造成してということは、香登地区へも説明なり、今後の状況等についてしっかりとお話をされて御理解もいただいているのでしょうか。

○大森建設課長 駐車場整備事業につきましては、市が利用状況を見ながらやっておりますので、地区への説明については行っておりません。

○石原委員 駅前、駅の整備については、もう至るところの駅、多くの駅を抱えていますので、備前市も、たしか今現在も、整備についての構想を練っておられる段階だとは思いますが。やはり小さいにしても、何かを市が行うのであれば、当然地区等へも御説明なりという姿勢は必要だと思います。

それから、これはもう意見になりますが、ここの駅から僅か数百メートル西側へ、新駅の構想も引き続きおありのようですが、僕が感じますのに、そっちの新駅構想を一旦ストップして、隣接している香登駅前をさらなる利用増のためにこういうことを検討されたり提案されたら、まだ理解ができるかも分かりません。ここでもまた整備をして、僅か数百メートルのところへ、またさらに新しい駅の構想もお持ちの備前市が、果たしてこのような形で取得されて駐車場整備というのはちょっと合点がいかないというか、理解に苦しむところもあります。今回も、後ほど意思表示をさせていただきますが、今のやり取りをした上で、しっかりと吟味して意思表示しないとイケないと思いますが、現状、僕はいまだ合点がいかないというのが意見です。

○大森都市整備部長 委員の御意見ですが、前に、土地取得特会でも、新駅のことについては、市の方針等を説明させていただいたわけですが、やはりJRの利用促進ということで、特に長船まで、それから播州赤穂までの区間につきましては、利用数は非常に多いわけですが、長船から播州赤穂までの区間がこの対象になっている区間で、非常に利用が少ないということでもありますので、県北で廃止を前提とした協議をしたいという、地元の自治体への協議もございましたので、その辺、非常に危機感を抱いております。

新駅につきましては、10年、20年かかるということで、当面は公園でということでお話をさせていただいたわけですが、やはり利用客数を増やすということであれば、新駅も必要かなと思っております。

それから、パーク・アンド・ライドについては、どの駅もですが、できる限り駐車場を確保すれば、利用客が便利になりますので使いやすいということで考えております。長船駅を見ていただいたらよろしいかと思いますが、大きな駐車場もございます。あそこまではちょっと土地の工面が厳しいかと思いますが、空いている空間がありましたら、なるべくパーク・アンド・ライドを進めていきたいと考えております。それはコンパクトシティ・プラス・ネットワークということで、人口減少が進んでいる備前市においては、必要であるということで、進めさせていただきたいと考えております。

○大森建設課長 先ほどの利用率の補足ですが、令和4年4月1か月間の利用台数ですが、10台以上が16日、そのうち15台以上が6日ございました。それと、5月においては、10台以

上の日にちが13日、15台以上の日にちが2日という利用をいただいております。

○石原委員 今、パーク・アンド・ライド等で駅を利用しやすくして利用増につなげるであったり、新しい駅を造ることで利用増につなげて、赤穂線存続に、減便の危険に立ち向かうというお話です。これもう所属部署を超えてしまうかもしれませんが、そういう駅の整備以前に、利用増であれば、もうあらゆる様々な場面で、赤穂線の利用促進をもっともっと部署の垣根を越えて取り組まれるべきではないかと。参考までに、例えば市民センターで大きな参加者を募るイベントがあるような際も、普通だと、駐車場に限りがありますので公共交通をなるべく御利用くださいみたいなアナウンスや文言が付記されているイベントの案内なんかがよくあります。備前市の場合、そういう御案内であったりお願いであったりというところの働きかけが全くもって不十分であって、まずそここの姿勢ではないかと思いますので、駅の整備、確かにきれいになって広々とすれば、当然いいわけですが、その前にやることではないかと、今の御答弁をお聞きして感じましたので、これは御意見を伝えさせていただくということです。

○尾川委員 利用促進の話が出たので、地元協議、JRと協議があったという話があって、初めて聞いたわけですが、ほかの人は聞いているかどうか知らないけど、危機感があるという部長の発言があったわけですが、そんなことを議員に話をしてもらえないのかな。

それと、非常に大事な話だと思うので、利用促進をもっと広範囲に、私が提案したことがある。要するに、待ち時間が多いから、長船で待つ、西大寺で待つ、東岡山で待つと、だから距離は短くても時間がかかるという問題がある。そしたら、長船まで行って、長船は回数が多いし、便数も多いし、乗っていこうかということで、向こうへ行く。恐らく備前市、それは調べたことないと思うけど、西のほうの人は、結構長船駅へ出ると思う。そんなことは関係ない話かもしれませんが、要するに、利用促進を考えているのなら、もっとその辺の調査というか、現状把握をして対応していくと、私、提案したことある。時間がかかる、だから乗らない。職員の人はあまり電車に乗らないということで、利用促進するのなら、鶏が先か卵が先かになるが、もっと利用者促進するのであれば、今話があったように、全体的な構想で、例えばICOCAをやったって、1回切りで終わらなわけだ。全体的な捉え方で、本当に危機感があるならよ。あといつも私が言っている上下方式、線路のほうはお前ら持てと、運転はうちがやるということでやっていく可能性というのはこれから多いと思う。試金石になるのが芸備線とか、あっちのほうが問題になってくると思うけど、その辺で、対応というのをどこから、どっちからやるのかということ、駐車場が先か、それとももっと利便性とか利用者促進にはどうしたらいいかということ、市として考えていっているのかちょっと質問させてもらいたい。

○大森都市整備部長 計画としましては、立地適正化計画ということで、もう人口減少が進む中で、どう人口の誘導をしていくかということで、駅周辺に人口を誘導していく。それに駅を使ってネットワークで交通の便をよくして、その駅周辺に住んでいただくと。それには、やはりパーク・アンド・ライドといったものが、これはハードになりますが、そういったものが必要であるということで、計画は立てております。

ソフトについては、いろんな方法があるかと思います。それについては、今も検討をしているところで、決定打というのがなかなかなく、これをすれば、人口が、利用客数が増えるというところは、まだ今のところ考えられておりませんので、今後とも、利用客数を増やすために、ソフト面については考えていかないといけないと考えております。

○尾川委員 話はまた違うけど、県の交通手段を調査すると、公共交通機関だったか何だか、県が結構お金をかけて調査するという事になっていて、そのあたり、データがどのくらい、どうせ1年や2年かかると思うけど、そういう結果を受ける前に、パーク・アンド・ライド、パーク・アンド・ライドと言うわけですが、駐車場の話をしているわけだから、今、それをあなた方は主張しないといけないけど、全体的に、赤穂線をどういうふうに、公共交通機関、宇野バスを含めて、どう考えていくかということ徹底するほうが先ではないかと。

ただ、いろんなことを、例えば学生が、緑陽高校ではなく岡山市内の学校へ行く子が多いという、備前市からは、そういうデータがあるわけで、補助を出してまで乗ってもらわなくてもいいのか、あるいは、一般の大人の通勤が自家用車で通勤しているのか。そういう調査もしていないと思うので、そういうものに補助を出して、赤穂線に乗ってくれるのかどうか検討していくということもやっぱり必要と思う。そうまでして乗ってもらわなくてもいいかもしれないが、それは駐車場を準備するのと、全く考え方は同じだと思うが、その辺で何か意見があったら。

○大森都市整備部長 究極といいますか、料金を補助すると、全額出すとか、そういった方法はあると思いますが、それがどれぐらいの金額になるのか、財政的にもつのかというところがあるかと思いますが。

今、委員がおっしゃられたとおり、地元の住民の方とか、利用者の方の御意見とかもお伺いしているようでありましたら、そういったのもやはりお話をお聞きしながら、そういう会議とか、御意見をいただくような場がありましたら、なかなか職員だけでは検討も難しいと思いますので、そういった御意見をいただきながら進めていくべきだろうと思います。

○松本委員 初歩的な質問ですが、利用率は、例えば何時間以上止めるとか、どういう意味ですか。ちょっと止めるとか、いろいろあると思いますが。

○大森建設課長 利用率は、駐車場へ券売機を置いております。1回100円で買っていただいて、券売機で発行している枚数を数えています。ですから、1時間ですら出る人もいれば、1日止められる人もおられるわけですが、マックス1日100円ということです。

○松本委員 これ有料ですか。

○大森建設課長 有料です。1回出て、もう一回止めたら2回というカウントになります。

○森本委員 先ほど、令和4年度の4月、5月が、駅前が70%に稼働率が上がっているというお話、要因的には何かつかんでおられますか。

○大森建設課長 駅前ですが、令和3年4月26日に供用開始をしております。令和3年度分については、データは出てないですが、令和4年度、今年度のこの70%という数字については、ほかの駐車場も若干あるので、ゴールデンウィークについて、4月、5月、お休みが多いので利

用してくださったのではないかと考えております。

○森本委員 さっき、部長から長船駅も出たわけですが、長船駅が駅の改修に当たって、駐車場の台数が減っているという話も、ちょっと直近で聞いたので、現場へ行ってはいないですが、減っているという話も聞いたわけですが、そのお話は御存じでしょうか。

○大森都市整備部長 すいません。ちょっと承知しておりません。

○森本委員 結構備前のほうから長船駅を利用されている方が多いのは私も聞いていますし、先ほどのお話もあったわけですが、駐車場の稼働率が100%行けばいいですが、たくさん駐車場が空いているということで、それを減らして駅の改修に当たったという話を聞いたので、これが関係するのかもしれないともちょっと思ったりもしたわけです。課長の説明のように、ゴールデンウィークとかを挟んでいるということの話になれば、関係がないのかもしれませんが、長船を利用される方でもなかなか駐車場がいっぱいになっていないという現状もあったりして、ここも稼働率が、私も通るたびに、あそこをちょっと見させていただいていますが、50%ぐらいだろうとは思っていました。やはり先ほどの話で、なかなかそれ以上にもなっていないということもあったので、前回は、駅の南のほうもなかなかいっぱいになってなくて、駅前に造るときは利便性のために仕方がないということで賛成はしたわけですが、それをまたもう一つ造るとなったら、やはりある程度、現状の駐車場の稼働率が大変厳しい状況もあるということであれば、造る必要性も出てくると思いますが、現状では、やはりもう一つ造るにはなかなか賛同できないという思いがありますが、その点いかがですか。稼働率のことから見て。

○大森都市整備部長 私も、国道2号を通るたびに見ておりますが、70%は行っておりますので、満車というのが一番いいかと思いますが、70%程度あればいいと思います。それに加えて、多ければ多いほど利用客も増えると。使いやすくなるということであれば、増えるのではないかと思いますので、今、駅前に利用できる空き地がありますので、進めていきたいと考えております。

○藪内委員 先ほど聞いた数字を見ると、令和4年度で、駅裏が減って、ゴールデンウィークもあるでしょうが、駅前が増えた。例えば、前は半分以下が今回70%とか行っているわけですが、駅裏を閉めて、増やすのであれば、駅前を増やすのはあるけども、どっちもは要らないのではないかと。前たしか掛谷議員とかも、半分行かない状況なので要らないと言われていたわけです。ですから、そういうことをするのであれば、それもありかなと思いますが、実際、長船の利用率が高い低いありますが、あれは本当に便数との関係があったり、反対側の赤穂線でも、赤穂駅の一駅向こうの坂越、あの辺は赤穂駅前止めにくいけれど、料金も高い。しかし坂越は1日200円とか300円とかの設定だったので、すごく駐車場だらけぐらい駐車場があるわけです。赤穂で乗るよりも、割とスムーズに乗り降りができるので、そういったことをいろいろ、周りの状況を考えないと、何か増やすばかりでは、70%になったから増やす、100%とか120%になって増やすのであれば分かりますが、70%になったから増やしますでは、ちょっと理由づけが弱いと思いますが、どうでしょう。

○大森建設課長 土地取得については、いろんなタイミングがあると思います。今回について、パーク・アンド・ライドの考え方ですが、国道2号を通っていて、駐車場に余裕があるとか、例えば香登駅に止めに來る人がいつでも安心して止められるというような形を考えたいと思っているわけです。余裕を持つこと、その余裕が何%がいいのかというのは議論のあるところだと思います。市としては、駅の南側があるにしても、国道2号を通られる方に、ぜひ備前市の駅で乗っていただきたいということもございますので、今回、駐車場の増設を上げさせていただきました。

○藪内委員 私、1年前ですか、パーク・アンド・ライドは、今の香登と関係ないですが、日生とかにも必要で、それが駅前であればずっと止めてさっと乗れると。そしたら、渋滞なく、岡山とか姫路とかに行けるので、それは私もそのようになればありがたいと思っていました。だから、今、課長が言われているのは非常にいいとは思いますが、あそこは大体止められるなということが分かっていないと、いつもいっばいだとほかのところを考えるので、特に日生だったら、もう途中で、伊部や香登に止めるのであれば、さっきから出ている長船駅であるとか、そういうところを考えます。パーク・アンド・ライドの考え方は非常にいいとは思いますが、裏が40.8%に落ちて、表が70.0で、それだけではまだ余裕があるかなと思います、その数字だと。どうでしょうか。

○大森建設課長 区画数は、14台と16台でございます。2台程度変われば、1台程度、2台程度増減があれば、その数字は動きますので、そこは微妙なところかなとは思いますが、土地取得については、いろんなタイミング、事業についてはいろんな事業のタイミングがあると思います。今回、市としては、4月、5月もオープンして1年たって増えているということもございませし、安心してパーク・アンド・ライドを利用していただきたいという形で、今回の予算を計上させていただきました。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を終了いたします。

これより議案第49号の採決を行います。

本案は原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」「異議あり」と呼ぶ者あり〕

異議ありとのことですので、挙手により採決します。

本案は原案のとおり可決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

挙手少数であります。よって、議案第49号は否決されました。

以上で議案第49号の審査を終わります。

ここで説明員入替えのため暫時休憩いたします。

午前10時00分 休憩

午前10時10分 再開

○山本委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

それでは、委員の自己紹介並びに説明員の紹介を行います。

まずは、委員から行います。

(委員長から順次自己紹介)

○山本委員長 次に、部長から、説明員の紹介をお願いします。

(各部長から担当課長を紹介)

○山本委員長 ありがとうございます。今後ともよろしく願います。

***** 報告事項 *****

それでは、報告事項に入ります。

本日は、文化観光課、備前焼振興課、産業振興課、都市計画課、吉永総合支所から報告事項をお受けしております。

まず、文化観光課から報告をお願いします。

○片岡文化観光課長 文化観光課より、来月以降のイベントに関する事業について御報告させていただきます。

1点目ですが、岡山備前SEA TO SUMMITについてお知らせします。

2019年から3年ぶりとなります岡山備前SEA TO SUMMITを、来月、7月23日、24日に、備前市総合運動公園をメイン会場に開催いたします。

先月の5月23日から、今月、明日までの6月24日まで、モンベルのホームページにて募集を行っておりまして、現在、86組の131人の方にお申込みをいただいております。

イベントにつきましては、7月23日土曜日に、備前市総合運動公園体育館で開会式を実施し、24日にカヤック、自転車、登山、ハイクのアクティビティーで、参加選手が市内を駆け巡りますので、沿道でお見かけの際には声援等をよろしくお願いいたします。

次に、オリックス・バファローズ観戦応援ツアーについてお知らせいたします。

オリックス・バファローズとのスポンサー契約により、備前市の冠試合とした協賛試合を実施いたします。試合の日時は、8月7日日曜日の13時開始のデーゲームで、オリックス・バファローズ対北海道日本ハムファイターズ戦となります。本協賛試合により、備前特別観光大使のオリックス・バファローズ所属山本由伸選手、頓宮裕真選手を応援するための観戦応援ツアーを企画し、「広報びぜん」6月号に参加募集を掲載しまして、今月10日から20日月曜日の間、備前市ホームページを通じまして募集を行いました。応募者数は269組、766人で、今後、抽せんを行いまして、今月30日には応募の結果を参加決定者へ通知いたします。参加者の決定は200人程度を予定しております。

次に、備前花火大会の開催についてお知らせします。

従来の花火大会の形式を取らず、サプライズ形式で、7月中旬頃から9月にかけて、市内各地を巡る花火大会を実施します。期間中の週変わり、リレー形式で各地区を巡り、数分間の花火

打ち上げ、打ち上げ花火ができない地区では仕掛花火等を実施したいと考えております。

打ち上げ場所や日時は、事前に広く周知したいところではありますが、感染対策並びに花火の観覧者が密集し、打ち上げ花火付近の地域の方に御迷惑をおかけしてはいけませんので、花火打ち上げ場所や日時は、各地区の町内会回覧等で事前告知を行いまして、関係する地区ごとで御観覧をいただきたいと考えております。

最後に、本年4月1日付で、市長宛てに瀬戸内観光汽船様より、日生・小豆島大部フェリー航路継続に関する要望書が提出されております。

要望内容を簡略に申し上げますと、日生・大部間のフェリー航路は、利用者の急激な減少、物量の低下など、非常に厳しい経営状況の中、新型コロナウイルス感染症の拡大、遷延により深刻な影響を受け、さらに燃料油価格の急騰が苦境にある航路経営に追い打ちをかけている状況にあります。瀬戸内観光汽船様も、保有資産の売却、船員人件費圧縮や運営コスト削減に努めておりますが、今後、年間通じて定期運航を維持するためには、運航を民間委託とする公設民託型など、事業支援をお願いする内容の要望が出されております。

日生・大部間のフェリー航路は、小豆島側への観光客の利用が多い航路でもありますので、今後はまず、小豆島側の土庄町との協議を行い、現状の調査も進めてまいりたいと考えております。また、調査を進める中で、国等の補助制度の活用も検討するため、航路分析や経済効果などの調査研究、さらに航路改善の提案といった航路改善計画の作成等も必要になってくるかと思っておりますので、御承知いただければと思います。

○山本委員長 文化観光課の報告事項4件ありましたが、もう一括で行かれますか。それとも、1つずつ、最初から行きましようか。まとめてでよろしいですか。

〔「まとめて」と呼ぶ者あり〕

文化観光課の報告事項に対して、質疑のある方の発言をお願いします。

○石原委員 サプライズの花火について、7月中旬から9月にかけてということで、各地区と言われました。サプライズだから、あまり公には難しいかもしれませんが、何地区、何か所というのは分かりますか。

○片岡文化観光課長 今現在、8地区ほどで検討しております。

○石原委員 8地区はどこのことというのは分かりますか。

○片岡文化観光課長 西鶴山地区、香登地区、伊部地区、片上地区、東鶴山地区、それから三石地区と伊里地区と、あと吉永と。日生のほうは日生のほうで花火を開催されますので、その8地区で考えております。

○石原委員 この花火の打ち上げはどちらへお願いされるのか。

○片岡文化観光課長 以前、サプライズ花火を伊部地区でされておられた備前青年会議所とも今協議しており、森上煙業等で花火を上げていただくような格好で、今調整を図っております。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

○尾川委員 日生・大部間の利用者減という話があったが、市とすれば、どういう考え方で対応

していこうとしていますか。

瀬戸内観光汽船が経営していたと思うが、詳しいことを教えてください。

○大岩文化観光部長 瀬戸内観光汽船が経営しておりますが、市の考えとしては、まずは存続が一番に考えたいと思いますが、赤字補填とか、そういったことで、もうずっと補填するのも厳しいと思うので、一応期限を区切って、存続の方向で土庄町とも関係を持ちながら、備前市だけでなく、連携しながらやっていきたいとは考えております。土庄町とも交渉に行きますし、存続する場合でも、備前市にとってどのくらいの経済効果があるのかといったことも考えながら、数千万円とか、負担金、赤字が今後出てくるときに、それが長期間、うちのほうも補填は難しいと思うので、そういったところで、何がしかの落ち着くところを考えてまいりたいと思っております。

○尾川委員 瀬戸内観光汽船の会社そのものは、日生と大部間だけで、岡山と小豆島へ行っている、あの路線とは全く切り離して考えているのか。

○大岩文化観光部長 瀬戸内観光汽船は、高松から土庄と、宇野、玉野から3路線持っておりますので、今考えているのは、うちの関係でいいますと、大部と日生間を考えているだけです。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の報告事項をお願いします。

○高坂備前焼振興課長 備前焼振興課から1件御報告いたします。

4月14日から5月18日まで、春の備前焼フェアを開催したところ、多くの観光客の皆様にお越しいただきました。実施しました主なイベントとしましては、45の作家、窯元、ギャラリーの参加をいただき、そちらの参加協力店で3,000円以上の備前焼の買物で、応募抽せん券——はがきですが——を配布して、応募者の中から50人に1万円相当の備前焼福袋をプレゼントする応募抽せん券の配布を行いました。

また、4月30日、5月3日、4日に、伊部駅前広場において、伊部地区以外の作家さん、窯元さんが備前焼販売テントを出店していただき、訪れたお客さんと直接お話をしながら備前焼を販売していただきました。

そのほか、参加協力店において、お茶会をしていただいたり、窯たき見学ができたり、訪問者に飲食の提供をしていただいたり、また飲み歩きイベントのいんべノミーノを実施していただいたりと、多くのイベントを実施し、多くの観光客の皆様にお越しいただけたものと考えており、コロナ禍の続く中、少しでも地元地域の活性化となったものと考えております。

春の備前焼フェアに引き続き、瀬戸内国際芸術祭の夏会期に合わせまして、夏の備前焼フェアの開催を予定しております。

期間としては、令和4年8月5日金曜日から9月4日日曜日までの31日間で、春のフェアを参考としながらも、夏季の開催となりますことから、近年の酷暑等を考慮したイベント、また作陶体験を通じて備前焼に触れていただくイベントなどを企画、実施したいと考えております。

フェア開催の際には、委員の皆様にも足をお運びいただければと思っております。

○山本委員長 報告事項に対して、質疑を希望する方の発言を求めます。

○森本委員 備前焼フェアも初めての取組で、反省点とかはもう検証とかされたのでしょうか。

○高坂備前焼振興課長 これ本当に初めての試みでございました。私も何日か本部テントでお客さんの利用を見させていただきましたが、なかなか天気もよくて、暑い中、お客さんに多数来ていただいたところでございます。

今度、夏の開催になりますので、かなり酷暑が予想されますので、暑さ対策をしたイベントをしなければいけないと思っております。

そのほか、小さな点ではいろいろ反省点がございます。春の備前焼フェアのイベント内容を精査しながら、夏のイベントも考えていきたいと思っております。

○森本委員 ちょっとお話を聞いたところによると、テントを出して、また1日片づけてという話があったりして、それはちょっと大変だつて、事前にそういう説明を受けていなかったというお話もちらっとお聞きしましたが、担当課としてはきっちり説明をされていなかったか。

○高坂備前焼振興課長 私のほうは説明していたと考えております。

○森本委員 何人かの方からは、しっかりと事前説明をしていただきたかったというお声も聞いているので、初めてのことでですから行き違いもあるかもしれませんが、次、開催されるときには、よく連携を取って、そういう声がないように進めていただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○高坂備前焼振興課長 貴重な御意見ありがとうございます。ぜひ、参考にさせていただいて、協議をして、そういう不満とかがないように進めさせていただこうと思っております。

○山本委員長 ほかに質疑はございませんか。

○尾川委員 私、聞き漏らしているかも分かりませんが、どの程度実績があったのかなあと考えて、こういうの。その統計は取ってないですか。どのくらいの実績があつて、経営とはまた別よ。どのくらい反応があつてという、全体的な参加者数は出ていたけど、日生から小豆島へ回ったという人数を参考までに教えて。

○片岡文化観光課長 瀬戸内国際芸術祭春会期に日生港から小豆島への往復チケットを購入された方に、復路部分の乗車券を無料とするキャンペーンを実施させていただきました。期間につきましては、4月14日から5月18日の春会期になりますが、実際にはこのキャンペーンを利用させていただいて御乗車いただいた方が、実績として2,987人の方に御利用いただきました。

瀬戸内国際芸術祭ということで来場された方に御利用いただけたとは思いますが、これにつきましては、4月、5月の春会期にフェリーを利用された方ですけれども、昨年、一昨年とコロナ禍で減少していた乗船者の数を前年、昨年度と比較しますと、4月、5月で、大体97%は増になっているという感じになっております。

○尾川委員 2,987人というのは、妥当な推察というか、予想どおりという感じ、予算金額

はちょっと忘れたけど。その辺は評価するというのが、また続けてやろうとしているわけでしょう。やっぱり検証して、何かほかにもっと、それはどうなのか。船やめようか言うたりしているわけだし。2, 987人、どういう評価しているのか。

○片岡文化観光課長 先ほどの人数に関しては、実際にキャンペーンを御利用いただいた数ですから、往復ではなく片道で行かれた方もおりますので、全体の数としての把握はなかなか難しいです。夏会期、秋会期につきましては、今後、備前焼フェアとの協力もしまして、フェアにお越しになられた方については、予算に追加で計上させていただいておりますので、予算決算審査委員会で御説明させていただきますが、今度は、お買物をされた方にフェリーの乗車券を無料にするということを考えております。

○尾川委員 新聞で、瀬戸芸というのは、人口減と高齢化が進む島々の活力を戻そうとして始まったと。これが一つの定義づけというか、哲学みたいな感じだけど、その辺とよく整合性を取っていかないと、なかなか趣旨と、北川フラムという総合ディレクターがいるが、新潟の人だったと思うけど、その辺要らないことを、一言多いけど。

○片岡文化観光課長 ありがとうございます。今回、うちのほうが、瀬戸内国際芸術祭に関連した事業を実施しているのが、この開催期間に合わせまして、国際瀬戸芸の開催地ではありませんが、周遊の地域として、芸術祭に来られたお客さんに少しでも備前市に立ち寄っていただけるということで事業を実施しておりますので、また夏会期、秋会期にも、瀬戸芸に行かれる前に、まずは備前市に立ち寄っていただくというような事業を実施したいと考えております。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の報告事項に移りたいと思います。

○坂本産業振興課長 産業振興課から、1点、報告をさせていただきます。

企業用地として造成をしましてまいりました市営久々井団地の土地売買につきまして、岡山大鵬薬品株式会社様と合意ができましたので、備前市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例に基づき、財産処分の議案を6月定例会最終日となります6月30日に追加提案をさせていただきますので、御審議のほどよろしく願いいたします。

本件に関しまして、簡単に御説明をさせていただきます。

市営久々井団地の造成につきましては、令和元年に、岡山大鵬薬品株式会社様と覚書を締結し、オーダーメイド方式で約2.7ヘクタールの企業用地の造成工事を行ってきたものでございます。

契約金額につきましては、4億151万1,000円で予定をしております。

土地の引渡し後につきましては、岡山大鵬薬品様の社員駐車場の整備及び工場倉庫棟を建設する計画であると伺っております。

○山本委員長 質疑を希望する方の発言を求めます。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、次の報告事項をお願いします。

○小川都市計画課長 都市計画課から報告をさせていただきます。

日生地区にあります移住体験住宅の用途廃止及び所管替えですけれども、日生地区の地元住民グループから、介護関係の事業をやりたいということで、現在の移住体験住宅を拠点として事業を始めたいという要望がありました。

その内容についてですが、利用状況について調べたところ、コロナ禍の中でということもあって、令和3年度ですが、半年間で6件ということで、令和2年度の27件から大幅に減っておりました。一方で、移住調査宿泊補助事業がありまして、それについては、当然、コロナ禍の中において、営業時間短縮等の制約があったにもかかわらず、令和2年から3年にかけて、18件から26件に伸びています。日生の体験住宅はあまり利用されていないということもありますので、移住体験住宅としての用途廃止を行い、その後は日生総合支所へ管理移管をすることとしました。

○山本委員長 質疑を希望する方の発言を求めます。

○藪内委員 利用したいという団体というか。介護サービスですか。

○小川都市計画課長 団体名というのは、私は存じ上げておりません。ただ日生地区の方が、体験住宅を利用して介護タクシーや介護福祉関連の事業をやっていききたいという要望があって、その状況を調べた結果、利用数が大変少ないので、用途廃止をして、その場所の管理を日生総合支所に移管したということでございます。

○藪内委員 利用は確かに少ないですが、半年で6件ということだから、年間で考えて、単純に12件、令和2年に比べて半分以下ですが、それを本当に少ないというのかどうか分かりませんが、一応利用者はいるのはいるわけですが。

○小川都市計画課長 利用者はいますが、平成29年度が26件、平成30年が37件、元年度が18件、2年度が14件で、3年度は半年で6件、掛ける2にしても6件で12件、年々、利用者数が減ってきております。そういうことを判断して、管理移管をすることにしました。

○藪内委員 判断のとおりでよろしいかと思いますが、ただ12件とか14件とかある方の対応はどうされますか。

○大森都市整備部長 日生も何件かあるわけですが、先ほど申したように、市内の旅館、ホテル等を使っていただく移住の補助金がございます。そういったところを使っていただいて、その民間の事業者の方も利用客が増えるということもありますので設立をさせていただきました。それから、吉永にもう一件、移住体験住宅がございますので、そちらも利用できるということであり、全然なくなったというわけではなく、そちらを利用していただければよろしいかと思えます。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の報告事項に移りたいと思えます。

○江見吉永総合支所長 吉永総合支所から、吉永の笹目地区にあります牛中簡易給水施設での水質異常が発生した件について報告をさせていただきます。

概要としまして、この簡易給水施設でございますが、小さな集落等で、水源から取水をして各戸へ水を供給するという事業でございますが、その一つの牛中の簡易給水施設で基準値以上のクロロホルムを検出したため、配水池からの給水を止め、各戸に水を配るという処置を行ったものでございます。

対象となります世帯が7世帯でございますが、詳細としましては、先週6月17日の金曜日の夕刻になりますが、この日の水質検査で、水道の基準値以上のクロロホルムが検出されたという速報が入りまして、対象世帯への周知、これは飲用として使用しないということです。お風呂とかトイレとかの水では大丈夫ということですが、周知をして、各戸へ水を配るということを行いました。

また同時に、配水池及び管路の中にある水を入れ替えるという作業を行っております。

それから、その週が明けまして、月曜日、20日の日に、再度水質検査を行いました。依然として若干基準値を超えているため、水を配るということを経続いたしました。

それから、先日、22日に、再々度水質検査を行ったところ、今朝になり結果が出ましたが、基準値以下となったために、安全宣言を發出して、ちょうど今、各戸へお知らせをしているところでございます。

その間につきましては、毎日各戸へ水を配っております。配った水につきましては、1日3リットルのペットボトルを配ったということでございます。

この原因としましては、水源の異常と申しますか、この水質に汚濁があると、その汚濁を除去するために薬剤を注入するわけでございますが、その注入量が、汚濁が多いとやっぱり注入量が多くなるということで、クロロホルム濃度が上がったと考えています。ですので、機器等の何かの設備の異常というわけではないということでございます。

この対策としまして、今後、薬剤の注入量を細かに調整して、クロロホルム濃度が上がらないように対策をまいりたいと考えております。

○山本委員長 質疑を希望される方の発言を求めます。

○石原委員 クロロホルムなるものがどういう影響を与えるのか、こういうものが基準値以上検出されたというのは初めてでしょうか。参考までに、これまで備前市内のほかの給水施設等でもこういう案件はあったのかどうか。

○池本上下水道課長 こういった水質異常の履歴としましては、過去にも同じように、この牛中で発生したことはございます。対応としては、今回と同じような対応を取らせていただいております。

まず、クロロホルムについてちょっと御説明をさせていただきます。クロロホルムと申しますと、以前は世界的な麻酔薬として使用されていた成分の薬剤でございます。ところが、このクロロホルムの麻酔では、肝臓とか不整脈への副作用があるということで、現在では使われており

ません。なぜこのクロロホルムが発生するかといいますと、よく水道水で、家庭用の浄水機をつけたときに、トリハロメタンを取り除きましょうというのはよく広告されていると思います。このトリハロメタンの主要の4種目の一つにこのクロロホルムが当たります。このクロロホルムですが、水の中のいわゆる汚濁物質、汚れの部分、こういったものと、消毒をするための塩素、この塩素とこの汚濁物質が反応することによって発生する場合があるという成分になっています。

今回もこちらの牛中の水源地で、ちょうどこの時期になりますと、やっぱり雨が降ったときに水源地となる川の濁りが出てまいります。濁りが出るということになると、水道水ということになりますから、飲料水にするためには、残留塩素が0.1ppm以上ないと消毒として成り立たないということで、塩素の注入量をどうしても汚濁、濁りが増えてくると増やすという作業を行っております。その塩素の注入が多くなったこと、それから、不純物、汚濁物質が原水の中に増えたということ、それから気温の上昇、水温の上昇ということで、その反応が起こりやすい状況が重なったということで発生したのではないかと考えております。

過去にも同様な状況で、浄水をした後の水槽の清掃であるとか、配管中の水抜きということを行って、回復に努めるということを行っております。

過去には、平成29年7月に、同様に水質異常が起こったという実績がございます。今回と同じような対策を取り、そのときも再検査で基準値を下回って安全宣言を出したということがございました。

○山本委員長 ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

報告事項全般で質疑漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

***** 所管事務調査 *****

ないようですので、続いて所管事務調査に入ります。

本日は、委員から、調査事項について事前にお伺いしている案件はございませんが、何か所管事務調査についての御発言がございましたら、よろしくお願ひします。

○石原委員 水道に関してですが、坂根の浄水場、それからポンプ場ですか。そこの工事の進捗はどうなっているのでしょうか。

○池本上下水道課長 坂根浄水場及び、三石第一加圧ポンプ場の建設工事、整備工事ですが、令和3年度については、設計業務、それからくい打ち工事を実施しております。現在、水槽の基礎の部分であるとか、コンクリート工事を今着手して行っている状況となっております。

○石原委員 それから、香登かいわいで、ごつい基幹の管路ですか、数年かけて、600ミリのものをサイズダウンして徐々に更新していきますというのが、何らかの事情で、場所が変わったか、何かそこは後回しにしてみたいな、何か1回あったと思いますが、そっちの管路更新についてはどうなっているのでしょうか。

○池本上下水道課長 管路更新についても、順次計画的に実施していく予定にしておりますが、

多分、委員おっしゃられた香登地区の管路は、もともと、その送水管を更新しようという計画を立てていたわけですが、将来的に、企業団地とかの計画のある用地ということを確認いたしました。計画されるということを確認した上で、もう一度きちんと、一旦埋めて、またそこを掘り返すというのは無駄な工事になっていけませんので、もう一度その辺の確認をした上で実施しようということで、一旦、そこについては保留という状態です。ほかの管路につきましても、当然、老朽化した管路については計画的に更新を計画していこうということで実施を予定しております。

○石原委員 その部分については、以前も図面も出てきて、当初はこういう形で年次的に進めていく方針も示されて、さっき言われたような事情で、そのところは保留にしますよと。保留になった代わりといたしますか、そのほかの部分での管路更新については、適切にというか、計画は皆、ここは保留だけど、こっちでは進めますよというような形で、計画的に進んでいっているのでしょうか。

○池本上下水道課長 やはり限られた予算の中で実施していくということで、現在は、水源地、それから三石第一加圧ポンプ場の更新と、今、一番そこに力を注いでいる状況になっています。そういったものも含めて、当然管路についても、更新は計画的にやらなければいけません、やはり全て一度に工事に予算が割けるという状況でもございませんので、そういったものも含めて、計画的には実施していくということで考えております。

現状としては、どうしても管路の更新については、ちょっと今、ゆっくりめという形で整備を行っている状態です。

○石原委員 かなり大規模な工事の管路更新が計画をされていて、当然その分の予算も財源も確保されていたような計画が保留になって、さっき言われた浄水場の大規模な工事もありますが、その部分は当初から計画されていたところで、厳しい財政面もありましようが、大変重要な水道、命に直結する水ですので、しっかり計画的に予算も配分して、何なら予算もしっかりと配分されて、ほかのところをしっかりとできるところから着実に進んでいっているのかなというイメージでいましたが、どうですか。

○池本上下水道課長 委員、御指摘どおりだとは考えております。現状としましては、やはり浄水池、それからポンプ場の更新をした上で、現在の有収水量、それから実際の人口に対する送水する量、サイズダウンも含めたの計画を持った上で、適切な更新を考えてやっていきたいと考えております。

○山本委員長 休憩いたします。

午前10時56分 休憩

午前11時05分 再開

○山本委員長 再開いたします。

所管事務調査を再開いたします。

○尾川委員 報告事項中でもちょっと触れたが、特に赤穂線、JR西日本と備前市との話について

て、もうちょっと詳しい話、内緒でまだ公開できる段階でないという状況なのかも分からないですが、やっぱり一番気になる。こっちが何するというわけにいかないですが、マスコミが書き立てる、芸備線でしたか、津山の市長なんかも、何の話もない、一方的なという、新聞報道によると、そんなことを書いてあったが、どういう状況なのか。どうしようとしているのかということも、分かる範囲内で話をしてもらえたらと思います。

○大森都市整備部長 県北のほうで問題になっております赤字ローカル線になりますが、それを見られたと思いますが、公表されて、今のところ中国地方では県北の3路線だったと思います。そのときに公表された資料によりますと、備前市が入っているのは赤穂線から長船の間ということで、輸送密度といいます、18年度の数字でいかれたのではないかと思います。18年度が2,204人であったのが、20年度の数字は1,677になっています。これはコロナの関係があるのではないかということですが、ちなみに山陽線の上郡・瀬戸が5,602、これは上郡から瀬戸までという広い範囲でありますので、三石、吉永がこの路線に入っている、数字的には大丈夫というか、2,000を切っておりませんので。相生から播州赤穂が7,066、長船から東岡山が8,871、これが20年度の数字で、18年度はもっとあります。やはり2,000を切ると、そういうことになるのではないかというのがありまして、危惧しているということでございます。

これを公表よりも前に、市のほうも、片上の駅舎から改修を始めていってございまして、立地適正化計画等で、駅から周辺の居住誘導区域を設けて、そちらのほうに住んでいただいて人口減少の中を、そういった形で進めていこうということでしたので、今回この減便、それから廃止に向けた検討というのはそこまで考えておりませんでしたけど、この4月に、県北を名指しされたということでもありますので、余計に赤穂線のほうの数字が気になりますので、これは何とかしないと、さらなる減便、その後の対応も考えていかないといけない時期になっているのではないかと、ということでございます。

ですので、前から、駅周辺、駅舎の改修であったり、パーク・アンド・ライドはこれからの時代必要であると考えまして進めておりましたが、急にここに来てそういうことになりましたので、余計に対応していかないといけないと考えております。

○石原委員 今のJRに関してですけど、JRに関しては、こちらでいいですか。公共交通の課もあるでしょうが、JRについてはこちらでしっかりお聞きすればいいですか。ちょっと確認。

○大森都市整備部長 昨年度から、市街地活性化政策課をつくりまして、駅を対象にした課でございますので、今までも赤穂線の利活用については、公共交通であったり、ほかの課も関わってきておりますので、ここだけではなくて、ほかの部署にもまたがります。

○石原委員 すいません。JRについてはまた。

それから、定住政策について、先ほどの報告の中でも、日生のお試し住宅に関する報告もあつたりしました。お試し住宅、吉永にもあつたり、過去には伊部にもあつたかな。そういうところを利用された方々のその後について、実際に備前市への定住にその方々が結びついておられるの

か。

それから、今日でなくてもいいですけど、宿泊されたり、備前市を移住・定住のための調査に訪れる方にも補助事業があるじゃないですか。そういう方々も、補助制度を利用した後に、幾らかでも備前市への定住・移住につながっているのか、もし追跡というか、その後の調査をされているのかどうかをお聞かせいただければと思います。

○小川都市計画課長 若年者の補助金とかを使われて、その後、新築まで至った人等の調査についてはやっております。おおむね30%ぐらいの人が、市内の人も市外の人も含めて、たしか3割程度つながっていると記憶しております。

先ほど報告させていただきました体験住宅の利用者の方々が移住されたかどうかというのは、実際には調べていませんし、その後の住居の移動とかなんかも調べていかなければならないわけで、なかなか時間がかかると考えております。

名簿を見ていろいろ考えますが、個人よりも世帯で利用される方が多いです。その中には、若い女性と若い子供の方が泊まられたり、同じぐらいの20代の人が、名字が違う男女が利用されていたり、60歳定年を過ぎて地方に移住したいということで、泊まっていられる人もおられたり、いろいろあるのが現状で、はっきりとつながっているとかつながっていないとかというのは、分析し難い部分であると、私は考えております。

○石原委員 確かに、その後の住まいをどうされたか、どういう関係かとか、プライバシーの問題もあったり、どういう形で追跡というか、その後把握するかということも大いに問題がありましようが、市が税金を投じて、そういう移住・定住施策を進めている中で、何かせつかくのそういう事業に対して、リアクションとかだけでも、せめて。備前市を訪れてみてどうでしたとか、どういう感想を持ったとか、どういうところが課題だと思ったとか、こういうところはよかったとか、何かそんなことを幾らかでも意見として酌み取ることができるような形って何かないのかな、せめて。

それから、何組かでも、実際にそういうお試し体験とか、補助事業を使って備前市を訪れて、関心を持たれて、その後、何組かでも移住・定住につながりましたというのが幾らかでもあったら、何かちょっとでも事業をやったかいもあるし、少しでもハッピーな気分になると思います。せつかくされている事業、その後についても御検討いただければどんなかなというのを思いました。これ要望でお伝えさせていただいて、よろしく願いいたします。

○山本委員長 ほかにありませんか。

○藪内委員 ちょっとJR関連で、JRの寒河駅前の駐車場を整備していたと思いますが、途中で止まっているようですが、これどういう状況でしょうか。

○大森建設課長 寒河駅の利用状況といたしましては、基本的に横の駐輪場ぐらいの高さまで盛土を行います。なかなか転圧が難しい状態なので、今盛土の状態で、沈下の様子を見ているというような形でございます。今、備前市としましては、備前片上駅のほうの予算を計上させていただいておりますので、そちらの整備を行った後に、また中で話をして、いつ頃それにかかるかと

というような話にはなろうかなと思いますが、今の状態としては、盛土の様子を見ているのが現状です。いましばらくお待ちください。

○森本委員 河川のしゅんせつのことですが、もう少ししたら、また雨もたくさん降るシーズンにも突入します。市民の方がよく言われるのは、早くしてほしいということですが、処分場の建設が待たれるわけですが、とにかく、自分のところはいつしてくれるんだという話を、特に聞きます。早い話が、要望が多分たくさんたまっていると思いますが、目の前の方なんかは、特に一番にしてほしいみたいなお声も聞くわけです。市としては、総合計画にも目標値とか書いてありますが、今までしていなかったこともあるので、処分場が完成したら、集中的に予算を取って進めようということは考えておられますか。それとも、たんたんとこの目標値に対して計画的にやっていくのか。それとも、計画的にやっていく上でも、今までしてなかった分を、ちょっと集中して二、三年間かけてやっていくとか、そういう方針があるのかなのか教えてください。

○大森建設課長 残土処分場については、今工事を実施しております。今年度予算についても、今年度と来年度で債務負担行為で予算をいただいております。早期完成に向けて、工事を実施しております。

河川の現状としましては、確かに多くの要望等をいただいております。しかしながら、調べてみると、右の土が左に寄ったり、計画箇所からそんなにたまっていないような現状もありますので、地元の協力を得て、例えば草刈り等をしていただいて状況を確認して、堆積が多いところについては、残土処分場ができれば一定の規模で実施する必要があると思います。それについては、残土処分場の完成の後、また皆様の状況をお聞きして実施するような形になると思います。

○森本委員 課長の説明をもう一回確認したら、完成してから、各地区の河川の状況を地元の人と調べて協議して進めていくことですか。完成前に事前に調べておくということはないわけですね。完成してからになるんですか。

○大森建設課長 現地を見ることは、それは可能です。どうしても堆積土砂量の関係があったりするので、工事発注のときに併せて行いたいと思うので、そういう発言になったわけですが、気になるところがあれば、事前に連絡していただければ、現地に確認は行きますので、よろしく願います。

○石原委員 同じく河川に関連ですけど、市が管理するところと、県の管理の部分も結構あるように思います。県の令和4年度の事業として、昨年度は何か、八塔寺川でしたか、かなりの部分のしゅんせつというより、樹木、支障木の伐採のようなことがかなり行われたり、今年度もそういうことで、県としても同じような河川の管理というか、そういう工事も予定をされているのでしょうか。

○大森建設課長 また、詳細な箇所については県と協議をいたしますが、今年度も実施して下さるという意向は聞いております。

○石原委員 土砂のみならず、そういう川の中へ生えている木もかなりどんどん大きくなって、それこそ支障となっているところもあるように見受けますので、特に県管理のところこそ、少し

大きめの川ですし、しっかり県にもお伝えをして、より強く推進していただくようお願いをしたいと思います。

違うことでいいですか。

一般質問でも取り上げられましたが、各種経済団体等への補助の在り方についてですけれども、一般質問の御答弁では、幾らかの団体さんとは定期的に顔を合わせて意見交換であったりというところに行っているお話もございました。1つ、市長でしたか、商工会議所等への補助金の在り方として、その参考として大分県の豊後高田市でしたか、そこの補助の在り方を参考にしてみたいなことを言われたわけですが、もし分かれば、豊後高田市の補助の在り方、参考にされた補助の在り方というのを、割合というか、補助金を算出する上でどのようなところを参考にされたのか、ちょっと興味持ちましたので、もし分かれば。

○坂本産業振興課長 豊後高田市の事例を参考にという件であります。基本的に割合とかそういうものをというのではなくて、金額的なものと伺っております。

具体的な金額といたしましては、約200万円、そういう数字を、昨年の委員会の中でも、担当課長が説明をさせていただいたように記憶しております。

○石原委員 今の御説明をお聞きしても、豊後高田市と商工会議所と、それからここでは大分県の出番もあるのか、分からないですが、そのあたりの補助の在り方を参考にされて、こういう商工会議所への補助金は令和4年度は備前市はこうしよう、何か、制度設計とか、そういうものを参考にしているのならまだしも、単に金額を、恐らく同規模、ちょっと備前より大きいぐらいの町ですか。そこの商工会議所への補助の在り方を金額だけを引っ張ってきて参考にさせていただきます、議場でも答弁をされる。それこそまさしく、おっしゃればおっしゃるほど説得力に欠けるというか。今日でなくても結構ですので、また次の機会にでも、どういうところを参考に、令和4年度の補助金の算出、備前市で反映してされたのかということ、いま一度僕らでも少しでも分かるように御説明いただければと思います。これもお願いですけど、ただ単に金額だけを、いつぞや訪れられた自治体の事例を持って帰られて、あそこの町ではこうでしたというのを大きな根拠とされるのであれば、それこそ説得力に欠けるという思いを引き続き持ちましたので、次の機会でも結構ですので、どの部分のどういうところを肝に、備前市で参考にされたのかというところ、次で結構ですので、お聞かせいただければと思います。

○山本委員長 ほかに調査事項ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、所管事務調査を終わります。

ここで暫時休憩します。

午前11時27分 休憩

午前11時41分 再開

○山本委員長 休憩前に引き続き委員会を再開します。

***** 議案第48号の審査 *****

それでは、議案第48号令和4年度備前市土地取得事業特別会計補正予算（第1号）の審査を行います。

本案に対しまして、森本委員から修正案が提出されています。

まず、修正案提出者からの説明をお願いします。

○森本委員 それでは、説明をさせていただきます。

参考資料で頂いたこの5つの図面を見ていただいたら分かるかと思いますが、一番上の1点目の畠田の用地です。2,700万円の土地と、備前市立備前病院前の土地2,000万円、それと大淵の、計画ではサッカー場みたいなお話があったところの1,000万円です。それと、もろもろそれに係る費用で、1件につき2万円で、3件分ですから6万円、それを修正したいと思います。御賛同よろしくお願い申し上げます。

○山本委員長 修正案提出者の説明が終わりました。

次に、修正案提出者に対する質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を打ち切りまして御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、修正案の提出者に対する質疑を終了します。

以上で議案第48号に対する全ての質疑を終了します。

これより議案第48号を採決します。

なお、採決については、まず修正案について採決を行い、その修正案が可決された場合は、続いて修正部分を除く残りの原案について採決を行います。修正案が否決された場合は、原案について採決を行います。

いま一度申し上げます。

採決については、まず修正案について採決を行い、その修正案が可決された場合は、続いて修正部分を除く残りの原案について採決を行います。修正案が否決された場合は、原案について採決を行います。

それではまず、修正案について採決します。

修正案に賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

挙手多数であります。よって、修正案は可決されました。

続いて、ただいま修正可決した部分を除く残りの原案について採決します。

修正部分を除くその他の部分については原案のとおり決することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

挙手多数であります。よって、修正部分を除くその他の部分については原案のとおり可決され

ました。

以上で議案第48号の審査を終了いたします。

***** 閉会中の継続調査事件の協議 *****

最後に、閉会中の継続調査事件について御協議いただきます。

議会の閉会中において、委員会は原則として活動ができません。継続審査となった議案や請願を除きまして、閉会中の継続調査事件として付託された案件に限り、閉会中もなお継続して調査ができることとなっております。そこで、閉会中も委員会の調査が可能となるよう、総務産業委員の所管事項を考慮して、お手元のレジュメのとおり、あらかじめ付託案件を御提案しております。調査期間は、調査終了までということです。

本定例会最終日に、本会議にて付託いただくこととなりますので、これらの調査事件についての御協議をお願いしたいと思います。

暫時休憩いたします。

午前11時46分 休憩

午前11時49分 再開

○山本委員長 継続調査事件は、レジュメの案のとおり、最終日に本会議で付託いただくということによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、異議なしと認め、そのように決定いたします。

以上で総務産業委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時50分 閉会